

前回よりも充実

第14回茨城県統計図表コンクール入選作品決る

県と県教育委員会ならびに県統計協会では、統計思想の普及宣伝と統計の表現技術の研さんをはかるため、県民からひろく統計図表を募集していたが、締切日までに下表のとおり219点が集まった。

部別応募作品点数

部別	応募作品点数	
	38年(14回)	37年(13回)
1 小学校1～3年生	77	65
2 " 4～6年生	93	68
3 中学校生徒	49	28
4 高等学校生徒	—	—
5 一般	—	1
計	219	162

9月26日県統計館で、県統計課、教育庁総務課および指導課の多数の審査員によつて、公平な審査を行なつた結果、知事賞をはじめ別記のとおり入選作品が決まり、このうち小・中各5点を第11回統計図表全国コンクール参加作品として推薦された。

審査経過

まず審査基準ですが、資料の選択つまり「友だちのけがしらべ」とか「あさがおしらべ」というように題材のとらえ方によつて40点、これらの題材をもとに限られた紙面にどのように表わしたかこれを一般的には構図といつていますがこれに30点、更にコンクール用の図表である以上、いかに内容が立派でも人の目を引く力つまり美しさがなければなりません。そこで残りの30点は美観という角度からみたときの基準となつています。審査員はこの基準を頭において審査にあたるわけですが、それ以前に用紙規格があつていないもの、各部に出されたテーマにあつていないもの等は形式的に落されることとなります。それからいつも問題になることですが、教師の手が入っているかどうかということです。この問題は判定する場合に非常にむづかしく、いつも審査員を困らしています。応募要領でも絶対に教師が手を入れないよう示

されているわけですが、多数の作品のなかには巧妙に教師の手が入っているのが僅かに見受けられます。勿論小学校の1～3年の場合など子供たちの力だけで始めから終りまでやらせることは無理でしょう。従つて小学校の低学年の場合統計資料の処理、構図のとり方など必要最少限に指導することは必要であります。子供たちのやつているのを見ていてもどかしくなり、手を出してしまつては困るわけです。

審査の方法としては先程述べた基準によつてそれぞれの作品を見て、まず他の作品と比較していちじるしく劣るものを見せず、残つた作品のなかからこんどは優秀なものを選びだし、これを最終的に検討しますこの場合に誤字があつたり、統計図表として基本的な誤り、例えば単位がないとか、そこに画かれている資料の関係数字があつてないもの等が落されたうえで順位が決定されます

審査講評

昨年は全国コンクールで本県から出品した作品が中学校の部で見事一席に入選し、茨城の名を全国に知らしめ、本県下の各小中学校にも大きな影響を与えた。応募作品の数も作年を上廻り、内容も一段と進歩のあとがみえ、特に小学校生徒の作品で著しかった。しかし、急に学校間の格差が現われてきたように思われる、そのため入選作品も地域的に片寄つており、県下全域にコンクールの趣旨を普及し、同じレベルに上げるという課題はなかなか果たせるものではない。昨年以上に今年は統計教育指定校の作品が上位に入選し、指定校としての実力をいかに発揮した。ただ中学校の部では結城市内の中学校で独占する結果になつてしまつたことは何とも残念であり、強力なライバル校の出現が望まれる。

作品のテーマとして小学校の部では、「天気しらべ」「たんじょうしらべ」などが減つて「かぶと虫のちからくらべ」「アサガオにきたミツバチ」等生き物の様子を観察したものや「まつばぼんたんのさいたかず」「あさがおしらべ」等植物の様子を観察した結果をグラフ化したものが多くなつた。このようなテーマは子供らしく面白いものであるが、反面観察にあつての条件の規定や、観察の仕方、統計的な取扱などをはつきり決めておかなければならないことに注意することが大切です。

学校別応募作品点数

学 校 名	部 別			
	計	1	2	3
行方郡玉造町立玉造小学校	42	20	22	—
猿島郡三和村立諸川小	12	5	7	—
稲敷郡江戸市立江戸崎小	4	4	—	—
水戸市立浜酒門小	3	2	1	—
土浦市立真下高鍋津小	1	—	1	—
土浦市立立	4	1	3	—
結城市立	4	1	3	—
結城市立	8	6	2	—
結城市立	5	4	1	—
結城市立	2	2	—	—
古河市立	2	—	2	—
古河市立	4	1	3	—
古河市立	12	4	8	—
古河市立	10	9	1	—
古河市立	9	5	4	—
古河市立	2	2	—	—
古河市立	2	1	1	—
古河市立	1	—	1	—
古河市立	4	1	3	—
古河市立	4	1	3	—
古河市立	7	—	7	—
笠間市立	13	7	6	—
笠間市立	1	1	—	—
石岡市立	3	—	3	—
茨城県大洗町立	11	—	11	—
結城市立	6	—	—	6
結城市立	5	—	—	5
結城市立	7	—	—	7
結城市立	7	—	—	7
水戸市立	3	—	—	3
古河市立	9	—	—	9
鹿島郡旭村立	12	—	—	12
計	219	77	93	49

第1部 第14回茨城県統計図表コンクール入選者

順位	作 品 題 名	出 品 者 氏 名	学 校 名 又 は 住 所	学 年 又 は 年 令
1	アサガオにきたミツバチ	田 所 俊 文	行方郡玉造町立玉造小	3
2	はえのすきなたべもの	木 村 敏 江 鈴 吉 美 美 吉 田 秀 智 島 田 秀 子 藤 島 恭 子	猿島郡三和村立諸川小	1 1 1
2	気温とつめたいものの 売れるようす	川 佐 藤 恭 子 石 中 藤 子 成 島 の 子	古河市立古河第2小	3 3
3	かぶとむしのちからくらべ	川 村 村 子 石 中 成 島 子	結城市立江川南小	1
3	こずかいしらべ	成 島 村 子	行方郡玉造町立玉造小	2
3	あさがおしらべ	成 島 村 子	行方郡玉造町立玉造小	2
佳	魚のつれる時間	小 鈴 川 木 勇 鈴 吉 田 博	猿島郡三和村立諸川小	3 3
佳	ぼくのおやつ	一 船 色 橋 治	古河市立古河第1小	2
佳	虫のあるくはやさ	一 船 色 橋 正 行	結城市立江川南小	3

第 2 部

順位	作 品 題 名	出 品 者 氏 名	学 校 名 又 は 住 所	学 年 又 は 年 令
1	友だちのけがしらべ	渡 辺 加 津 江 榊 木 美 智 子 麻 生 澄 江 生 谷 達 利 宝 田 葉 則 稲 葉 香 香	猿島郡三和村立諸川小	6 6 5
2	太陽熱でおふろをわかしたら	森 小 田 信 司 荒 猪 井 良 一 大 関 島 瀬 由 紀 一 己 子 子	"	5 5 5
2	茨城の茶どころ	菊 地 吉 男	"	6 6 6
3	私たちの村の人口調べ	砂 築 山 和 美 鈴 佐 木 君 苗 館 野 武 弘	行方郡玉造町立玉造小	6
3	新聞の広告しらべ	岡 見 祐 子	結城市結城小	5 5
佳	1aあたりの収入	赤 荻 通 夫 森 田 貞 男	猿島郡三和村立諸川小	5 5 5
佳	水1ℓのふつとう時間は	岡 見 祐 子	行方郡玉造町立玉造小	6
佳	ボール投げ	赤 荻 通 夫 森 田 貞 男	結城市立上山川小	6 6

第 3 部

順位	作 品 題 名	出 品 者 氏 名	学 校 名 又 は 住 所	学 年 又 は 年 令
1	増加する交通事故	小 倉 克 己 長 谷 川 昌 樹 山 家 つ や 子 宮 田 栄 子 松 本 和 光 枝	結城市立結城中	2 2
2	結城市の桐下駄	石 川 嶋 三 代 松 北 枝 井 隆 操 富 田 川 正 夫 石 田 川 正 博 須 藤 美 己	"	3 3 3
2	結城市のかんぴよう	高 老 城 田 正 惠 松 本 洋 子	"	2 2
3	結城市民の死亡と寿命	蔵 持 野 あ や 子 梅 野 恵 子 江 田 す み 子 石 川 幸 安 子 広 部 田 ヨ シ 子 阿 部 美 恵 子 鈴 木 藤 恵 子 須 藤 美 子	上山川中	3 3 3 3 3 3 3
3	郷土の誇る民芸品結城紬	高 老 城 田 正 惠 松 本 洋 子	" 結城中	3 3
3	活発な工場の進出	蔵 持 野 あ や 子 梅 野 恵 子 江 田 す み 子 石 川 幸 安 子 広 部 田 ヨ シ 子 阿 部 美 恵 子 鈴 木 藤 恵 子 須 藤 美 子	"	3 3 3 3 3 3 3
佳	発展する結城市	江 田 幸 安 子 石 川 幸 安 子 広 部 田 ヨ シ 子 阿 部 美 恵 子 鈴 木 藤 恵 子 須 藤 美 子	" 上山川中	3 3 3 3 3 3
佳	結城市内の中学卒業生の進路	塚 越 恵 美 子 黒 川 尚 子 小 久 保 芳 子 猪 野 節 子 片 野 久 子 飯 ヶ 谷 哲 夫	" 山川中	2 2 2 2 2 2
佳	結城市のかんぴよう	松 藤 美 代 子 斉 藤 政 子 猪 瀬 美 智 子 黒 田 美 智 子 石 崎 春 子 深 谷 久 枝 石 村 島 則 枝 赤 荻 本 せ い 子	" 江川中	2 2 2 2 2 2
佳	結城市の特産かんぴよう	黒 石 崎 春 子 深 谷 久 枝 石 村 島 則 枝 赤 荻 本 せ い 子	" 山川中	3 3 3
佳	商圏の拡大をはかる 結城市の商業	石 村 赤 荻 本 せ い 子	" 江川中	2 2 2 2 2